

北海学園大学 人文学部

人文学部における 研究と学びについて

人文学部にはどんな先生がいるの？
どんな授業をしているの？
どうして今の研究テーマを選んだの？

人文学部における学びと研究について、
教員からの寄稿を通じてご紹介します。
また、人文学部独自の
インターンシップ・プログラムについて、
3つのプログラム概要を説明しています。

●大学での研究・学びとは

日本文化学科の須田一弘教授が、自著と
「生態人類学」について語る

インターンシップ・プログラム

1

鶴雅観光人材
養成講座

2

クナウパブリッシング
インターンシップ

3

クナウパブリッシング×
中川町インターンシップ



● 大学での研究・学びとは

須田先生が熱帯雨林に住む人々の 世界に迫る自著を解説!

担当科目

人文学部日本文化学科 教授 須田 一弘

- 1年生「人文学基礎演習」(隔年) = 大学での学びのスキルを指導
- 2年生「人文学演習」 = 人間の特徴を考える
- 2~4年生「文化人類学I」 = 文化とは何かを考える
- 3~4年生「生態人類学」 = 資源と社会の関係を考える
- 3~4年生「日本文化専門演習」 = フィールドワークを指導
- 4年生「卒業研究」 = 論文作成の指導

※「演習(ゼミ)」とは=学生が主体的に参加する、少人数のクラス



『ニューギニアの森から 平等社会の生存戦略』を語る

須田一弘
『ニューギニアの森から
—平等社会の生存戦略—』
生態人類学は挑む
MONOGRAPH 3、
京都大学学術出版会、2021年

2021年6月に京都大学学術出版会から「生態人類学は挑む」というシリーズの一環として、モノグラフの『ニューギニアの森から 平等社会の生存戦略』を出版しました。本稿では、この本の内容をご紹介しますと思います。「生態人類学は挑む」というシリーズは単著のモノグラフ10冊、論集であるセッション6冊の刊行が予定されており、2022年5月31日現在で、モノグラフ6冊・セッション4冊が刊行されています。モノグラフとは1人の著者が自分の調査研究についてまとめたもの、いわゆる単著のことで、セッションとは1人の編者のもとで特定のテーマについて複数の研究者がそれぞれの論考を寄せた論文集のことです。

本書の内容をご紹介します前に、皆さんにはあまりなじみがないと思われる「生態人類学」についてご説明します。生態人類学は、人間の活動に注目し、自然と文化の関わりを明らかにすることを目指しています。私たち人間は、熱帯から寒帯までの様々な環境で暮らしています。そして、それぞれの集団はこれまで周囲の自然環境と深く関わりながら暮らして



獲物のカムフライト



クボの人々と



戦闘時の衣装



サゴヤシを削る



サゴヤシを絞る



クスクス

致するようになったら、彼らと自然との関わりの基本である資源利用について調べます。私の場合は、どんな食料をどうやって、どのくらい手に入れているのかに関心がありました。そこで、彼らの畑やサゴデンプン作り、狩猟・採集活動などにバネバカリとメジャーと時計を携えてついて行き、そこで何が行なわれ

ているのかを記録しました。「重さがあれば重さを測る、長さがあれば長さを測る、動きがあれば時間を測る」というのが私のモットーです。そして、収集したデータを借りていた小屋に戻ってからノートにまとめて行きます。電気がないので、こうした作業は日中に済ませなければなりませんし、パソコンも使えません。

そのうち、まとめたデータからいくつかの傾向が浮かび上がってきます。クボの場合には、強い平準化のメカニズムが浮かび上がってきました。つまり、みんなが平等に暮らして行くために、なるべく不均衡を生じさせないようにしていることがわかったのです。この傾向は、資源利用だけではなく婚姻の際にも見られます。クボでは、現代日本のような恋愛婚はほとんどなく、また、結婚に際して女性の意見は反映されず、父親や兄弟によって決められます。基本的には、自分の姉妹を相手に嫁がせ、ほぼ同時に相手の姉妹と結婚することが望ましいとされています。そして、その背景にあるのは邪術への恐れであることもわかりました。食料や婚姻において不均衡が生じてしまうと、妬みの感情を抱くこととなります。そして、その妬みが邪術を引き起こすと考えられているのです。邪術をかけられた人は、その結果死んでしまいます。また、邪術師であることを疑われた人も殺されてしまいます。クボは、邪術に関わって殺されないように、平準化のメカニズムを作り上げたと考えられるのです。

以上が、私がパプアニューギニアのクボの活動に注目し、自然と文化の関わりについて明らかにしたことです。私たちとは全く異なる考え方や振る舞いをしている人を知ることには、私たちの人間についての固定された概念を揺らがせることもあります。しかし、そのことは人間の多様性を理解する手がかりにもなります。興味を惹かれた方がいらしたら、是非本書を手にとって読んでいただければと思います。

きました。周囲の自然から食料や道具、燃料などを手に入っていたのです。もちろん、現代の日本に暮らす私たちは、周囲の自然環境と直接関わりを持つことは少なくなっています。私たちの食料や道具、その他の資源は私たちから遠く離れた場所から運び込まれたものがほとんどです。しかし、現在でも、あるいはほんの少し前まで、周囲の環境に深く関わりながら生活している（いた）人たちもいます。「生態人類学は挑む」というシリーズでは、そうした人たちの自然との関わりを明らかにすることを目指しています。

さて、『ニューギニアの森から 平等社会の生存戦略』の主演は、パプアニューギニアの内陸熱帯雨林に暮らすクボという集団です。私は1988年、1994年、2003年の3回、クボの調査を行いました。私が暮らしたクボの集落シウハマソンには、電気も水道もガスもありません。水は近くの小川から汲み、薪を燃料にして煮炊きをします。もちろん、ほとんどの食料は自給です。主食は畑で栽培したバナナと、サゴヤシというヤシ科の植物の幹から作ったデンプンです。バナナの畑は肥料を施さないで、同じ場所で連作することはありません。一度収穫した後は別の場所に新しい畑を作ります。サゴヤシデンプンは幹を砕いて水にさらして作ります。動物性の食料は、熱帯雨林に棲んでいる野ブタ（およそ3000年前に人間が持ち込んだブタが野生化したもの）やクスクスなどの哺乳類、カンムリバトやヒクイドリなどの鳥類を弓矢で仕留めるか、近くの小川でナマズやザリガニを捕まえるかした

たもので、野生動物がほとんどです。ニワトリやヒクイドリを飼っている人もいますが、めったに食べることはありません。

さて、初めて調査地に入った場合は、住民の皆さんの顔と名前を覚えることと、皆さんに私のことを知ってもらうことが必要になります。2～3週間たって、顔と名前が一



儀礼時のダンス



蛇行するフライ川

インターンシップで 自分の **キャリア** を 見つけよう 🔍



人文学部では、キャリア支援の一環として人文学部生のみを対象にした、独自のインターンシップ・プログラムを設けています。人文学部生の中でとくに就職希望の多い観光業界や出版業界、公務員の仕事を体験できたり、これらの仕事に従事するプロフェッショナルと一緒にプロジェクトを動かしたりできます。また、どのプログラムも、専門教育科目「インターンシップ」(2年次開講、1単位)の単位認定を申請するための条件を満たしています。以下、3つのプログラムの概要を紹介します。なお、ヒューマン15号と17号には、プログラム参加者のインタビューや体験記が掲載されていますので、そちらも是非ご覧ください。

1 鶴雅観光人材養成講座

鶴雅リゾート株式会社の阿寒湖畔施設に宿泊し、北海道観光を牽引する産官学の各界の講師による講義、およびホテルでの現場実習を通じて、観光関連企業でリーダーとして活躍するための基本スキルを習得します。北海道の課題を広く理解できる点で、観光業界はもとより、道内の自治体や企業への就職を考えている人にも役立つ講座です。同講座には本学以外に毎年、小樽商科、立教、札幌国際、北海道文教、札幌大の学生が参加し、14日間という長期間にわたって寝食を共にしつつ、北海道観光全般を見通す内容の座学(23講座)と、自然体験メニューやアイヌ文化を体験するナイトウォークといった実践的な現場実習に取り組みます。



北海道各地の魅力を全国に発信する『スロウ』誌や、AIRDOの機内誌の編集をはじめ、印刷、出版、広告マーケティング、webデザイン部門、セレクトショップを擁する総合印刷会社、株式会社クナウパブリッシング(ソーゴー印刷株式会社が2022年6月より社名変更)の帯広本社にて5日間、雑誌や冊子の企画、取材、編集作業等を体験します。誌面構成力・文章表現の力を実践的に磨き、地域と関わり合いながら編集者のキャリア形成のための基本スキルを習得します。

クナウパブリッシングインターンシップ 🔍

3 クナウパブリッシング (Slow Travel Hokkaido) × 中川町インターンシップ

株式会社クナウパブリッシングと中川町(上川総合振興局管内)とともに、「地域の魅力を捉え直し、新たな文化・産業・観光を振興するプログラム作り」をテーマに、中川町が直面する地域課題を解決するためのミッションに取り組む、課題解決型インターンシップです。5~10日間で中川町に実際に滞在し、町職員や観光協会、地域おこし協力隊の方々と、地域イベントでの出展内容を考案してディスプレイの制作等を担当したり、森林、工芸等の、道内各地に眠った観光資源を発掘したり、中川町内の観光拠点における未活用スペースの利活用方法を企画・運用したりします。



文化を学ぶ 世界と繋がる



北海学園大学人文学部

日本文化学科(1部・2部) / 英米文化学科(1部・2部)

